

— 奮闘記 後編 —

長栄丸新造 突ん棒、一本釣り、底延縄、曳縄した

長栄丸を買って、突ん棒して、航海する度にカジキを大漁した。これで相当儲かったから、自分で船持ってやれるという自信もできた。今の船は大漁船だが、中古船だし、突ん棒しかできん。この機会にちゃんとした船持って、与那国から出ようと決めて、新しい船を造ることにした。この長栄丸は2年位は持っていたかな。これ千5百ドルで買ったけど、奄美で亀捕る人に5百ドルで売った。新造船は一本釣り船だが、突ん棒も、何でもできる船にした。

丁度29歳の時、石垣登野城の井上造船所で造った。船は実際は7トン位だが、登録は5トン未満にした。所長の井上重行さんは船造らして上手だったけど、遅かったが丁寧だった。

船材の松は黒島産か、あとは殆どヤラブで造った。船代は8千ドル掛かった、欲出して造ったもんだから、この船造って人生狂ったよ(笑)。この船代払うのに、相当苦労した(笑)。

新造船の船名も、前の大漁船、カリ一船にあやかる意味で、第一長栄丸にした。

この第一長栄丸は、与那国から石垣、西表、尖閣列島、台湾のストーンポー、シンコウとかで、一本釣り、底延縄、曳縄した。船員は多い時は5、6名、少ない時は2名で行った。底延縄でマーマチ(オオヒメ)、テークチャー(オオグチイシチビキ)、オークチマチ、ミミジャー(ヒメフエダイ)、アオマチなんかがいっぱい獲れた。アオマチも大きかった、13疋もあった。

与那国の西側の沖、丁度11月頃だった。ガーラ(アジ類)、あの時2人で行って千5百疋獲ったよ。与那国に持って行かれんから与那国から八重山に行く航路船に、早く揚げれ、揚げれして、魚全部積まし

て、八重山に下したこともある（笑）。

また突ん棒の時期なったら突ん棒もした。前に突き棚付けて、5, 6名乗って行って、マカジキ、クロカワ、シロカワ獲った。

この船造って1年後位かな。与那国にNHKの取材が来た。与那国はカジキの本場だから、突ん棒を撮影するからと来たから、この船に乗せてやった。皆出航からカジキ突いて港に帰るまで撮ってある。

僕がカジキ突いている所も写してある（笑）。

NHKには、このフィルムあるはず。71年の頃かな、復帰前だったはず。当時これ船が新しくて、走るさ。だからNHKは、櫓に乗って取材した。与那国のウマヅメに漁しに行く時に乗せて行って、あそこで撮影したわけ。僕はあの時30位だから、今から47年前になる、もう昔のことだが、あのフィルムがあれば、今観てみたいね（笑）。

尖閣、アカオで 曳き縄、一本釣り 底延縄やった

アカオ（大正島、赤尾嶼）でも曳き縄した。あそこは潮は速い。曳き縄にはいい漁場だから、宮古の船も、八重山の船もよく来ていた。アカオは当り前の島じゃない、岩の山だよ。海からこんなして岩山が突き出ている。あそこでサワラとか、イソマグロ



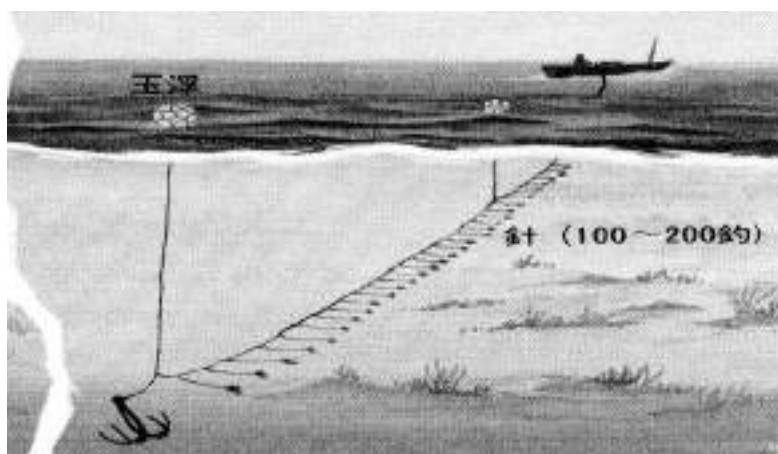
アカオは好漁場だ。曳き縄、一本釣り、底延縄できる。写真は曳き縄している宮古の漁船。〈長嶺巖 2012〉

とか夜流して釣った。サワラはサワラ曳きで、4, 50 扣のイソマグロなんかもこんなにあった。サワラも、イソマグロも相当釣れた。またウブシュー（ヤイト）という魚あるさ、冬なったらあれ釣ってきた。

尖閣列島は、一本釣りも底延縄もした。一本釣り船は、八重山のカツオ船が終わったら集魚灯でなら、3日位で満船できるから、尖閣近くに行って、7, 80 尋 120, 30 メートル位の所で、灯入れて、マーマチ、すごく釣れたよ。もう集魚灯を点けて、エサ下ろすと、皆底届かんうちに皆食っておった。海の底から上に上がる。電灯に向かって上がって来るから、150 メートル位の所でも、50 メートル位の所でも、マーマチなんかバンバン釣れた。

底延縄してもすごかった。普通底延縄なら、アンカー打つき。打って1か所に網固定するから、魚いる所に当たればいいけど、当たらんかも分らん。尖閣だと潮が速いから、固定すると潮に引っ張られて、網切れる場合もある。だから、僕は錘（おもり）だけにした。

これが底延縄の図。これ1人は舵取って、2人でやる、こういう樽3つ4つ位に皆針を掛けていて、2人でできた。釣針は多くない、樽1つには幹縄に釣針は7, 80 位掛けられて、これにエサも掛けられている。この樽3つ分の幹縄入れるから、全部で釣針240本位。



で、魚探見て、魚いるか見て、地

底延縄：長さ350メートルの縄に釣針240個を吊るし両端に錘付け130メートル深さに沈め、潮に流しながら底魚を釣る。

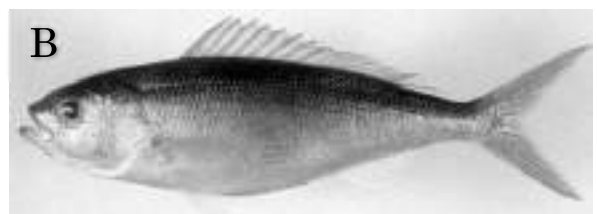
形見て、場所決めるさ。決めたら、そこに旗1つ立ててから、船スローで流しながら、樽の幹繩をボンボン入れる。これ終わったら、残り2つの樽の繩、これもボンボン入れて、最初は錘しているから、最後も錘してぶん投げる。投げたら潮によって流れるわけさ、もう潮に流されて、あとは底に繩は沈んでいくから。

枝繩に釣針1個、1メートル50間隔だったかな、それに釣繩の長さ50センチ位、だから繩の長さが350メートル位か。自分でこんな仕掛けして工夫したわけ。

これ底延繩だけど、浮き延繩にもなるわけ。底には着いているけど、途中で着かん所もあるはずよ。よう釣れよった。マチなんかこんなに釣れたね。大きなマーマチから、センネンダイ、いろいろ、これで成功して儲かったよ。

水深？ 大体70尋から85尋（130から150メートル）位だった。

水深は浅いからアカマチ（ハマダイ）、シチューマチ（アオダイ）なんかは釣れん。アカマチ、シチューマチは水深230~200メートル位だから。クルキンマチ（ヒメダイ）は釣れた。あれは140メートルで釣れるから。あれでマーマチ、テークチャー、オークチマチがいっぱい獲れた。

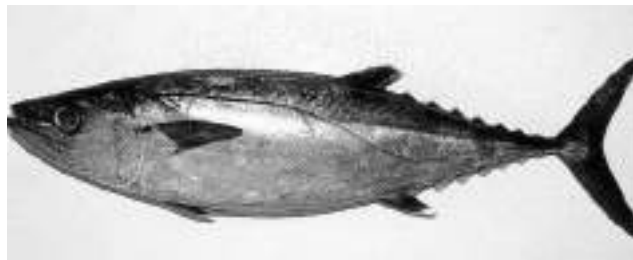


尖閣で釣れた魚は、底延縄（水深 130～150メートル）では、A マーマチ、B クルキンマチ、C テークチャー、D ミミジャーが獲れた。

E



F



あと曳き縄とかでは、でかいE サワラ、F イソマグロが釣れた。

僕の場合、魚獲ったら、よく宮古に入ったから、アカオでよくやった。あそこは宮古に近いから。あの時代は、八重山ではあまり魚売れんから、八重山に入るより、尖閣列島からすぐ宮古に入った。

宮古に魚下ろしたら、すぐ農家に行って、いろんな野菜買って、長栄丸に積んで、そのまま与那国に直行した。八重山は野菜は高い、宮古は安かった。その代わり魚も安かった。それ止む得ないから、宮古を往復したりして、少しでも儲けがあるように工夫して、いろんなことをやった（笑）。

尖閣最高の漁場 台湾中国にやられ、政府しっかりせよ

この新造船の長栄丸は 29 歳に造って、母が亡くなって、久高島にこの船持って行った。これが 33 歳の時だから。与那国では、足掛け 3, 4 年位漁していたかな。

あの時は、もうどことない、もう行ける所はどこまでも行った。尖閣列島に 2 人で行って、底延縄の縄入れて、スギ獲ったこともある。

あのクバシマ（魚釣島）が見える所で、あの島をノースウエス見て、この辺で仕事しておった。水深 85 尋位（150 メーター）に縄入れたら、スギ釣れた。25 扣もあった。700 から 800 扣位獲れた。あれすごかったね（笑）。

あれが僕の尖閣列島への最後の航海だった。

このスギを石垣の登野城漁港に着けたら、何やこれ？ 見たことない魚だから、こっちでは売れないと断られた。

丁度、鹿児島に行く船がいたからに、氷入れて、コンテナに積んで、すぐ鹿児島島漁連に送った。そしたら高く売れた。びっくりする位の値段だった。1 航海の経費だけじゃなかった、儲けが付く位高く売れたわけ（笑）。



尖閣諸島は最高の漁場、台湾漁船の違法操業は常態化。
南小島沖合に点々としているのは操業中の台湾船。
(松田賀勝 1968)

それから 1 カ月足らずで、この長栄丸持って、久高島に行ったと思う。そのあとずっと久高島にいるから、尖閣列島は全然行けんさ。

尖閣列島は、アカオも、クバシマも、今の魚釣島がクバシマよ。してその隣に小さい島あるさ。南小島、北小島が、あれ僕らはトイシマグワー（鳥島小）と言っていた。また上にユクン（久場島）もある。

もうあそこは皆一緒、魚はいっぱいさ。スギも、アカマチ、シチューマチ、クルキンマチ、マーマチも、イソマグロも、サワラも、ウブシューも、カジキも、いっぱいいる。

今でも魚はこんなにいるはずよ。それに曳縄も、一本釣りも、底延縄も、突ん棒も、どんな漁でもできる。

僕も全部自分で体験して来たし、また、大漁してきたから、よく分かる。



2隻の台湾船は操業を終え、島の傍らで休憩中か？（同上）

尖閣列島は、ワッター（我々）海人にとって最高の漁場だ。だから沖縄の、日本の宝の島だよ。今中国や台湾船なんかが行ったり来たりしている。もうあれなんかにやられているわけよ。沖縄のマグロ船もそうさ。日本政府はだらしがない。こっちは日本の領土だから、あれなんかに荒らさんように、保安庁は船出して、もっと厳しく取り締まってほしい。日本政府はもっとしつかりせんといかん。

母亡くなり 久高島へ 長栄丸で稼ぎ 船代払う

母は、僕がいつれ与那国から出て行くことに、悩み悩んでいたんじゃないか。このことで脳溢血で倒れたわけよ。丁度その時は、長栄丸で漁していて、カジキ獲って、組合に下そうとしていたら、母が倒れた知らせを受けた。もうびっくりよ。すぐ翌日米軍の飛行機にお願いして、救急で沖縄市の病院に運んだけど、9日目に亡くなった。

ハッセモー（感嘆詞 ああのタメ息の意）、物も思われんさ。それからの苦労は大変。親父は親父、ウワーバグト！（余計な事!）、こんな大金使って船造ったからこんなになった。もう船造らなくても